

第1回三重県地方創生会議概要

1 開催日時：平成27年3月23日（月）9:45～11:45

2 開催場所：三重県地方自治労働文化センター 4階 大会議室

3 議事概要：以下のとおり

1 開会（三重県知事 挨拶）

- ・本日は、幅広いご意見を伺うために、県民代表、産業界、行政機関、大学、金融機関、労働団体、メディアなど多くの分野から16名の委員にお集まりいただいている。
- ・地方創生とは、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラルを克服するため、各地域で危機感を共有し、行政だけでなく、県全体の創意工夫で困難な課題に挑戦していくものだと考えている。
- ・人口減少対策としては、人口減少の抑制をめざす「攻めの対策」と、今後数十年にわたり継続する人口減少及び人口構成割合の変化への適応をめざす「守りの対策」の両方が必要であると考えている。
- ・また、自然減対策と社会減対策を両輪として人口減少に立ち向かうことが必要である。
- ・これらの対策をファクトに基づいて、論理的に構築していきたいと考えているため、皆さんのお力をお借りしたい。

2 自己紹介

各委員より、1分程度で自己紹介

3 資料説明（大橋企画課長）

資料1～資料3により説明

4 意見交換

（項目）

三重県人口ビジョン（仮称）骨子案及び三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）骨子案について

各委員から出された意見の概要は以下のとおり（欠席委員の意見紹介を含む。）

(骨子案全体に対する意見)

- ・ 総花的であるため、優先順位をつけるべきである。
- ・ 次の段階の議論になるが、三重県だけでなく、道州制を見据え、東海州としての戦略を加えてほしい。
- ・ 対策は網羅的に記載しているが、具体的にどう進めていくかが課題である。

(自然減対策に対する意見)

- ・ 自分の子育ての経験から、地域のコミュニティ、地域の人目が大切だと考えている。昔は近所の人の子育てを手伝ってくれたが、今は母親に責任が重くのしかかっている。一番大切なのは、地域の子育てへの参加、母親同士の助け合い、企業の子育てへの参加、在宅のシッター型保育の充実ではないかと感じている。
- ・ 子育て中の母親8人程度のグループ単位で仕事を受注し、グループを子どもを預かる側と働く側に分けて、勤務することを支援している。子育て中の母親でも働く喜びを得ることができるため、このような取組を広げていく必要があると思う。
- ・ 少子化に関しては、80年代以降の90パーセント以上は未婚化が原因となっていることから、若者が地元で学んで就職して結婚することがベターである。
- ・ 産業と少子化が密接に関わっている。強い製造業があるところは多くの雇用を生んでおり、高い出生率を維持している。
- ・ 地域で人口を維持していくために地域内で産業が完結している必要はない。桑名市などはベッドタウンという選択肢があると思う。ベッドタウンという戦略をとると子育て支援の方法も変わってくるのではないかと。
- ・ 2005年から2010年まで全国的に出生率が上向いているが、特に出生率が上向いている市町村を調査すると、人口5万人以上の市では、少子化に関する個別の対策を実施している市よりも幅広い対策を実施している市で効果が上がっていることがわかった。人口5万人未満の市町村では、地域に応じた対策が必要である。

(社会減対策に対する意見)

○全体

- ・ 転入してくる人達が孤立して子育てしにくい環境に置かれることのないよう、転入者を受け入れる地域づくり、土壌が必要である。
- ・ 社会減対策では、特定分野に効き過ぎると、歪みが生じるおそれがある。全体的な底上げを図り、バランスをとることが必要である。
- ・ アクティブ・シチズンの考え方は非常に重要である。地域の魅力が増し、三

重県を選んでもらう、好きになってもらうことにつながる。

- ・「三重県らしさ」、「三重県ならではの」をどう出すかがポイントである。人づくりは大きな要素になると思う。

○学ぶ

- ・大学誘致に関しては、駅前に大学があることが大事である。駅前が空いているところに大学を誘致してはどうか。
- ・地方の大学でも自宅から通えない人は、大都市と同じように一人暮らしや下宿をして大学に通うことになるため、大都市と比較しても選ばれるような魅力ある大学づくりやまちづくりが必要である。
- ・特定種目の部活動の強化など、高校の特色化に取り組めば、子ども達も増えるのではないか。
- ・進学時を中心に、若者の県外志向が強い。郷土教育を充実させ、三重県の魅力を若者に伝えることが必要である。

○働く

- ・大学生に意見を聞くと、「三重県には仕事がない」といわれる。三重県に企業を誘致しないと人口は増えないのではないか。
- ・産業の活性化、働く場所をたくさん作るが一番大切で、各地域によって強い産業に違いがあるため、各地域の違いを発信していくことが大事である。
- ・三重県内にも強いアスリートはいるが、進学時に県外に出ていく方が多い。一旦外の刺激を受けることはいいことだが、県内に就職先がないのが問題である。
- ・就業者数に占める自営業主の割合が低下しているため、自営業を支援することを考えてほしい。
- ・中小企業で働く方と大企業で働く方の賃金格差が大きな課題であると考えている。特に、子育てに一番お金がかかる40代、50代の賃金格差が大きくなっている。そこが改善されなければ、若い世代が結婚をして、子どもを産んで、育てていくという将来設計が描けないのではないかと考えている。
- ・増え続けている不本意の非正規労働者がこのままの状態だと、未婚化につながる。正社員化につなげるため、キャリアアップ支援などが必要である。
- ・女性が働き続けられる社会に向けた対策をスピードアップさせる必要がある。
- ・就職時の社会減対策には、県内の学生に県内で就職してもらうための支援と、進学時に県外に出て行った学生に県内へ戻って就職してもらうための支援の両方が必要である。
- ・有効求人倍率は1.28でリーマンショック前に戻っているが、製造業は海外に

流出したままになっており、医療・介護分野の求人が増えている。ミスマッチを防ぐために、職業訓練等の人材育成が必要である。

- ・ 移住者を増やす前に、住んでいる私たちが元気でなければならぬと考え、軽トラ市などを開催している。まずは、地域外の人に興味をもってもらうために、知恵を出してメディアを活用することが重要である。
- ・ 生産年齢人口の減少面のみをクローズアップするのではなく、例えば、富裕な高齢者が増加することによって、経済活動が活発化する側面にも光を当ててはどうか。
- ・ 観光の産業化が大事な視点である。産業として観光で食べていくんだという覚悟の上で、三重県に足りないものは何かを考える必要がある。例えば、高級なホテルが足りないため、ホスピタリティを提供する高付加価値化などに取り組む必要がある。
- ・ 式年遷宮等で伊勢に観光にきた人をどうやってリピートさせるかが大事である。
- ・ 伊勢神宮が観光を支えていることを学校教育の中で位置付け、観光ビジネスを始められる人材を育てる必要がある。
- ・ 観光については、海外との関わり合いを抜きには語れない。イスラム圏からの旅行者を受け入れるためには、ハラール認証を取得していかなければならない。
- ・ 長時間労働の是正、ワークライフマネジメントが大事だと考えている。1日の1/3が家庭や地域の時間に費やされないと、いいコミュニティは形成されないのではないか。
- ・ 男性側の意識改革が進まないと男性の育児参画は進まないのではないか。日本のムラ社会のよさがなくなってきているため、連携・助け合いの精神を含めた社会の育児に対する認識を変えていく、充実させていく必要がある。

○暮らす

- ・ 定住先となり得るのは、一度行ったことがあり、いい思い出があるところである。近年は、式年遷宮、おかげ年、熊野古道世界遺産登録10周年で多くの観光客が三重県を訪れてくれたため、観光できた人を定住に結びつける方法を考えてみてはどうか。
- ・ 就職時に、三重県のよさ、三重県に住むことの意味を企業側が働きかけていかなないと若者は大都市に流出してしまう。三重県に住む良さを若い人に対してPRすることが大切である。
- ・ 集落は合併や集約の方向に動いているが、元気な高齢者も多いので、高齢者によるコミュニティビジネスを始める仕掛けをつくること、共助の仕組みや

経済合理的でない暮らし方を考え直してみるなど、三重県らしい集落支援のあり方を考えてほしい。

- ・ 空き家はたくさんあるが、空き家バンクへの空き家登録数が頭打ちとなっていることから、今後空き家を提供してもらえる方法を検討する必要がある。
- ・ 県内には5万人近い外国人がおり、多文化共生も議論されていることから、移民の議論も加えていくべきではないか。
- ・ 医療や給食が充実している県であれば、安心して住める県になると思う。
- ・ 高齢者を呼ぶためにも、医療に関する先鋭的なことを考えたらいいのではないか。

(基盤づくりに対する意見)

- ・ 次世代も住み続けたい町かどうかは、防災・減災に強い、又は強くあるべきと考えていることが大事なポイントになっているため、大規模災害に備えたまちづくりを重点項目で位置付けるべきではないか。
- ・ 国の交付金の交付対象として、ソフト事業に関連するハード事業の範囲をもっと広げるよう国に要望してほしい。

(知事の発言)

- ・ 全体を通じて、優先順位を付けていくこと、具現化をしっかりとすること、三重らしさを出していくことをご指摘いただいたと思っている。
- ・ 県境を越えた取組を具体的にどうしていくかを記載する必要がある。
- ・ 教育の問題は地方創生と直結するため、「学ぶ」だけでなく「暮らす」の中にも記載していく必要がある。
- ・ 学生と地域との連携の仕組みづくりについても記述を充実させる必要がある。
- ・ 仕事の創出については、産業の発展などを含めた量の拡大と、働き方の選択、長時間労働の是正、アスリートの就職支援などの質の向上が大事であると感じた。
- ・ 「暮らす」では、医療の内容を充実させる必要がある。また、集落支援、移住、多文化共生については、市町の総合戦略との関係もあるため、県の総合戦略にどこまで記載するか、市町と議論していく必要がある。
- ・ 防災面については、「暮らす」や「基盤づくり」で記載しているが、災害への備えをしていることが地域の強みや魅力につながることを記載していきたい。
- ・ 県においても、ハードの方が地域の資産として残ることから、国の交付金の交付対象として、ソフト事業に関連するハード事業の範囲をもっと広げてほしいと考えている。全国知事会からも要望を出しているため、市長会や町村会とも連携していきたい。

- ・今回は、総合戦略を策定するにあたって、重要なポイントをご指摘いただくとともに、各界の現場を踏まえた建設的な意見をたくさんいただいたと思っている。今後とも引き続きご指導をよろしくお願ひしたい。